

第105回日本精神神経学会総会

シンポジウム

本学会は「新訳」病名を普及させるのか？ ——「社交恐怖，素行障害，心的外傷後ストレス障害」について——

豊嶋 良一（埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科）

1. 「旧訳」は誤訳ではないか？

演者は昨年の本学会シンポジウムで、英語から翻訳されて流布している病名呼称用語の中には、人々にその症状を誤解させるおそれの強いものがあることを、アンケート調査結果にもとづいて指摘した。その用語とは、「社会恐怖，行為障害，外傷後ストレス障害」（以下、「旧訳」）である。原語の英語の語義に忠実に訳すとすれば、これらの病名は「社交恐怖（社交不安障害）」、「素行障害」，「心的外傷後ストレス障害」（以下、「新訳」）と翻訳するほうが、より妥当である。「精神神経学用語集2008」ではこれら，「社交恐怖（社交不安障害）」，「素行障害」，「心的外傷後ストレス障害」という翻訳が採用されている。このことは改善と評価してよいと思われる。

2. 「新訳」は混乱に拍車をかける？

しかし、今後、同一疾病に関して旧訳と新訳の複数の翻訳病名が混在する事態となるおそれもある。ことに「病名」用語は単に学術場面で使用さ

れるだけでなく、社会のさまざまな場面で公的に用いられるものである。公的使用にどちらの翻訳病名を推奨するのか、極めて重大な問題であるにもかかわらず、本学会としての方針が定まっていないのはたいへん遺憾なことである。

3. では、どうすべき？

本学会は「旧訳」，「新訳」いずれを推奨するのか、あらためて方針を明確化すべきである。また、「新訳」を推奨するのであれば、精神医学の教科書，保険適応の適応症病名，健康保険レセプトの傷病名などにもこの使用を関係諸機関に呼びかけるべきであろう。

そしてなによりも、今後このような混乱をきたさないためにも、国際的に用いられる外国語病名の翻訳にあたっては、翻訳出版関係者に任せるのではなく、公的な関連学会で検討したうえで翻訳病名を決定するなど、しかるべき手順をふむべきである。

（この論文は抄録集から転載しました）